

議決権行使レポート

証券コード 4521

会社名 科研製薬

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金の処分の件	○		
第2号議案 取締役8人選出の件			
堀内 裕之氏	○		
松浦 真洋氏	○		
太田 実氏	○		
鈴木 雅氏	○		
綿貫 充氏	○		
上別府 圭子氏	○		
高木 正一郎氏	○		
井上 康知氏	○		
第3号議案 監査役2名選任の件			
石田 直行氏	○		
小山 雅博氏	○		
第4号議案 補欠監査役1名選任の件			
熊谷 麻貴子氏	○		
第5号議案 取締役賞与支給の件	○		

上記の推奨をした理由

第1号議案について

今回の配当は概ね例年通りの額であり、金額に関しては問題ないと判断できる。一方、ISSの2023年度版日本向け議決権行使基準[1]によると、ISSが剰余金の処分の提案に賛成を推奨する配当性向の範囲は15%から100%までだが、2022年度の科研製薬の配当性向は103.6%と100%を超えてしまっている[2]。しかし、2018年度から2021年度まで配当性向はいずれの年も15%から100%までの間に収まっている[2]ため、2022年度の高い配当性向は利益の低下による一時的なものであり、財務の健全性に致命的な悪影響をもたらすものではないと判断できる。よってこの議案には賛成である。

第2号議案について

過去5年間のROEの平均は5%を超えており[2]、資本生産性については問題がないと判断できる。また、政策保有株式の過度な保有がみられる取締役候補者はおらず、株式総会後の取締役会に占める社外取締役数も3分の1以上で、社外取締役候補者の中に独立性に関して問題のある方はみられない。さらに、取締役候補者の中には女性の方もおり、ダイ

バーシティの観点からみても問題ないと判断できる。そして、取締役候補者のうち、新任以外の方の取締役会への出席率は全員が100%であり、出席率に関しても問題ないと考えられる。以上のことから、この議案には賛成である。

第3号議案について

社外取締役候補者の方の独立性については問題ないと判断できる。また、全員新任の候補者なので取締役会もしくは監査役会の出席率については判断ができないが、それを理由に反対票を投じることは全くもって合理的ではない。以上のことから、この議案には賛成である。

第4号議案について

補欠の社外取締役候補者の方の独立性については問題ないと判断できる。よって、第3号議案と同様に、この議案については賛成である。

第5号議案について

業績が極端に悪いわけでもなく、賞与額として提示されている額が異常なものであるわけでもないため、特に反対する理由がない。よって、この議案には賛成である。

参考文献

[1] ISS J A P A N Proxy Voting Guidelines Benchmark Policy Recommendations

(2023年6月23日閲覧)

[Japan-Voting-Guidelines-Japanese.pdf \(issgovernance.com\)](#)

[2] 財務ハイライト | 科研製薬株式会社 (2023年6月23日閲覧)

<https://www.kaken.co.jp/invest/highlight.html>